

地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

福岡県 グループホーム ハーティーマインドなぎの

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【 I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念を作り、それを実践するためにハーティーマインド心得を職員が意識しながら毎日の業務に当たっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝ハーティーマインド心得を唱和し、職員の意識付けに取り組んでいる。		毎朝の心得唱和をずっと継続していく。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地元老人会の新年会に参加させて頂き、グループホームの役割・取り組み等をお話させて頂いた。また中学校の体験学習の受け入れ。	○	地元老人会の方々と接する機会をもっと増やしていきたい。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣接老人ホームとの合同夏祭りで近所の方も来て頂けるように案内している。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元老人会の廃品回収に参加・餅つき大会の応援・どんど焼きの見物・川崎養護学校運動会参観・保育園ふれあいお遊戯会参加等		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域とかかわる機会を増やすようにしている。	○	地域とのかかわりをもっと増やしていきたい、要望や苑で何が出来るか考えていきたい。

地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

福岡県 グループホーム ハーティーマインドなぎの

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホーム便りの発行による、御家族への定期情報提供。地域とのかかわりの場を増やす。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域とのかかわりが少なかった前回までの評価結果について話し合い参加の機会を頂けた。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外は特になし。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営推進会議の議題にも取り上げ町職員より説明をして頂いた。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	お年寄りに優しくしなさいと常に声かけし、職員の意識付けを行っている。	○	管理者や職員が、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ちたい。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	詳しく説明し、質問内容について納得していただけるまで、説明している。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

福岡県 グループホーム ハーティーマインドなぎの

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者懇親会にて意見・要望を聞いている。利用者よりその都度提案・要望を出していただいている。終礼等を利用して実施に向けて運営者と協議している。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りの発行により定期の連絡を行う。病状に変化あった場合等は、その都度連絡。またご家族からの電話・来苑時にも近況報告を行っている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話・来苑時に「何かございませんか？」とたずねるようにしている。おむつ代の負担の軽減・お小遣いの件等ご要望を頂いている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の終礼・2ヶ月に1回社長との懇親会を行う。センサーの設置・冷凍庫の購入。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要があればその都度運営者と管理者が終礼等を利用し協議の上、確保調整していく。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員と供に行動させる期間を持つようにしている。管理者・施設長が職員の相談をその都度受け離職を最小限に抑えるように勤めている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

福岡県 グループホーム ハーティーマインドなぎの

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	更衣室設備の兼ね合いで今は女性のみとしている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	グループホーム協議会の実践報告研修会に参加。	○	研修参加者による苑内での報告研修を、確実に行えるようにしていきたい。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH実践者研修を年に1名ずつ受けてもらう計画がある。入社時に1ヶ月以内の期間で先輩社員についてOJTを行っている。	○	具体的な解りやすい教育計画の作成。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員が、GH協議会の実践報告研修会に参加。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	2ヶ月に1回社長懇談会。社員旅行。新年会の開催。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	賞与・昇給の採用。研修への参加。	○	給与体系の変更

地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

福岡県 グループホーム ハーティーマインドなぎの

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	他利用者への紹介。職員から声かけを多く行う。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時にゆっくりと出来るだけ詳しく説明を行っている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談の際、ご本人・支援者と面会し意向を聞いて話し合いをしている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	隣接している老人ホームからの入居がほとんどで、老人ホームへ遊びに行きお友達との関係を保ちながら、苑での生活に慣れていってもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食堂の掃除・配膳・下膳を手伝っていただいている。習字・絵をかいて頂いて苑内に掲示させていただいている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	夏祭り・クリスマス会に案内を出し参加していただけるように勤めている。病院受診で医師より説明のあるときは一緒に聞いていただいたり、内容を報告して相談している。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

福岡県 グループホーム ハーティーマインドなぎの

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠なご家族には、年に2回本人と一緒に はがきを書いて出している。来苑時は、お茶をだして、少しでも長く一緒にいていただけるようにしている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	老人ホームに遊びに行ったり、行事に参加したりしている。老人ホームからも遊びに来ていただいている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え渡るように努めている	食事の時の座席位置に気をつけている		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院の為、対応となった方の入院先への訪問を行う。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お小遣いをもちたいという利用者の要望を家族と本人と職員とで話し合い実施。今では買い物に行って自分で支払いしている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面会時に生活歴などを本人や支援者より確認し、職員に知らせている。また日常の会話で昔の話をして聞いている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

福岡県 グループホーム ハーティーマインドなぎの

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	おこづかいの管理・散歩の範囲・睡眠時間等職員の観察・報告によって把握するように心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活リズム・要望を基にケアマネが中心となって職員・家族より意見を聞き計画を立てている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じてその都度ケアマネ・職員が協議し本人・家族の了解を得て対応している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の様子を記入。心身の変化・注意すべき点は、業務日誌・申し送りノートに記入し情報の共有化を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	あらかじめ外出の予定がわかっていて、家族より介護の付き添いの要望があった場合付き添いを行った。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	訓練火災での119番通報の実演。文化祭への出展。図書館の利用。学校・保育園の行事への参加。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

福岡県 グループホーム ハーティーマインドなぎの

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向により家族・ケースワーカーと話を、他の施設へ転居できるように支援を行った。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	当苑の説明にお伺いした。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの掛り付け医を継続するようにしているが、本人の心身の状況の変化により、医療機関を変える場合は家族に相談し、受診後の報告を行っている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に専門医にかかり変化があった時は電話・受診にて指示をもらうようにしている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接している老人ホームの看護職員に相談・処置をお願いしている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時苑での生活状況等情報を提供している。定期的に職員が病院へ行き利用者の病状の把握を行っている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

福岡県 グループホーム ハーティーマインドなぎの

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・病院と相談しながら苑でどこまでお世話が可能か決めている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	変化があった場合、常にかかりつけ病院と連絡を取り、指示をもらうようにしている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む際、苑での生活状況・病気の状況の情報を提供している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄に失敗したときは、居室・浴室へ誘導し介助を行い、他者の目にふれないように配慮している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	お風呂・食事等の時間を利用者の要望を聞きながら日々の生活に取り入れている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩・描画・園芸それぞれ自分のしたいことを生活に取り入れている。入浴時間も本人の希望時に行うようにしている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

福岡県 グループホーム ハーティーマインドなぎの

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着衣は服を入居者自身に選んできていただいている。気温を考慮しながら声かけにて職員が対応している。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しでは、食材を選んでいただいたり、配膳・下膳の手伝いをいただいている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコ・ライターは苑にてお預かりし、希望時にお渡ししている。食事の制限がある人には、家族とも相談しなるべく希望に添えるように支援している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導の時間を変えながら排泄のリズムをつかみ、トイレにて排泄が出来るように支援している。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	13:00~21:00の間で自分のタイミングにて入浴をしていただいている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間散歩をして日光に当たっていた抱くよう心掛けている。あまり寝ない入居者がいるが、日中の短い時間で深い睡眠をとっているため寝ているときは食事の時間をずらして寝てもらっている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

福岡県 グループホーム ハーティーマインドなぎの

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩・描画・園芸それぞれ自分のしたいことを生活に取り入れている。掃除・配膳・下膳の手伝いをしていただいている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいをもって自分で買い物をしている。お小遣い帳を職員とつけるようにして自分で管理できるように支援している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの自動販売機へジュースを買いに行ったり、散歩をしたり日中は戸外に自由に出られるようにしている。距離の長い散歩時は職員同行。食材や日用品の買い物についてきていただいたりしている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	神社参拝・花見・ぶどう狩りに出かけている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い・年賀状・手紙の返信を一緒に書いて出している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	来苑された際は、コーヒーを飲みながら本人の近況を話しゆっくり時間をすごしていただいている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

福岡県 グループホーム ハーティーマインドなぎの

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症による周辺症状がみられた場合、終礼にて運営者、管理者、職員でその都度、身体拘束をしないケアを話し合い、実行してもらっている。	○	身体拘束とはどんなことか、拘束をすることで本人に与える影響はどんなことがあるのかについて勉強会を行う。定期的に行い意識の向上に努める。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間早朝以外は開錠している。不意な外出に対応するためセンサーやベルを利用している。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に全体が見渡せるテーブルにて記録業務を行う。定時の巡回を行っている。離床のセンサーの利用。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	髭剃りは洗面台の上にて保管していたが、他の入居者にふざけて使おうとしていたため、詰所の棚内にて管理。洗剤は物品庫の中の棚の上段に見えないようにして保管。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ビデオ・書籍を購入し必要な知識が学べるようにしている。避難訓練・毎日の安全点検を行っている		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	吸引機を備え付けている。ビデオ教材による、緊急時の対応についての苑内研修を予定。(7月、11月)	○	機材の取り扱い方・救急時の対応法を繰り返し練習し、実践できるように取り組んで行きたい。

地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

福岡県 グループホーム ハーティーマインドなぎの

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練の実施。隣接施設との連携をとっている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族に介助方法や起こりうるリスクについて説明している。ベットや家具の位置を検討し配置している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定を行う。入浴・更衣時に皮膚の変化が無いか確認している。必要に応じて病院へ相談・受診を行う。変化は申し送り帳・業務日誌に記録し、職員間で情報を共有。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬後の本人の状態を観察して必要に応じて病院へ相談・受診を行う。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者の状態に応じて苑内散歩・苑外散歩をして体を動かしていただくよう心掛けている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科医に口腔ケアの指導を受け、朝・夕歯磨きを行っている。自分で出来る方は自分でしていただいた後、職員がチェックさせてもらっている。義歯は、夜間ははずして、洗浄液につけている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

福岡県 グループホーム ハーティーマインドなぎの

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	コーヒータイムを設けるなどして水分補給をスムーズに行えるよう心掛けている。入居者の体調に合わせた調理方法で見た目にも気をつけるようにしている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルに沿って対応を行う。手洗い・うがいにて予防に心掛けている。インフルエンザ予防接種を職員・利用者とも行うようにしている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理終了後ハイターにて消毒を行う。食品の管理は、週2回の買い物時に冷蔵庫を確認し衛生管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にベンチや花を置いて親しみやすい感じを出している。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ・洗面所の入口に暖簾をかけたたり、季節の草花を飾ったりしている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチや花を置いて外の風に当たったり、ひとりになれるように配慮している。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

福岡県 グループホーム ハーティーマインドなぎの

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に自分の書いた絵や習字を貼ったり、仏具を置いたりしていただいている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の際は、外気を取り入れるようにしている。室温のほかに加湿器を使用して湿度にも注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の身体機能に応じて、居室内での転倒を防ぐためにベッド等の配置を換えている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室がわからない人には、入口に本人の馴染みのものを目印としてつけたりしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花や野菜を植えて入居者が楽しめるようにしている。浴室・トイレ・屋内壁に手すりを設置。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

福岡県 グループホーム ハーティーマインドなぎの

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2／3くらいの ③利用者の1／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんど掴んでいない

地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

福岡県 グループホーム ハーティーマインドなぎの

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている		①ほぼ毎日のように		
				②数日に1回程度		
			○	③たまに		
				④ほとんどない		
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 （この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

季節を感じていただいたり、地域とのかかわりをもてるように、外出する機会がおおく作るようにしている。入居者が安心して生活ができるように、心身の変化に注意し、医療機関と相談しながら早めの対応に心掛けている。